

フィリピン日系人会（PNJK）創立45周年記念式典における遠藤大使挨拶
（花田公使兼総領事代読）

イネス・山之内・P・マリヤリ フィリピン日系人会連合会会長、
エスコビリヤ フィリピン日系人会会長、
徳光 義弘 日比産業協議会会長、
網代 正孝 ミンダナオ国際大学 名誉総長、
猪俣典弘 PNLSC代表理事、
ご来賓、ご列席の皆様、

フィリピン日系人会創立45周年記念式典にあたり、ここフィリピンの地で、時に辛く困難な時代をその努力と忍耐によって乗り越え、フィリピンの発展、そして、日・フィリピンの友好の架け橋となってこられた全ての日系人の皆様に心より敬意を表し、本日を迎えられることに祝意を申し上げます。

戦前、ダバオにはアバカの栽培等に従事する豊かな日本人コミュニティが築かれ、その数は2万4千人に達したと言われています。また、その子孫である日系人の方々は、今日に至るまで日本との強い絆を維持しておられます。

第二次大戦の勃発により、日本人移民及び日系人の方々は、文字通り両国間の狭間に立たされ、筆舌に尽くし難い困難な選択を迫られました。日本人移民や日系人の方々は、これら歴史的な苦しみにもかかわらず、それでもなお、困難に立ち向かい、異なる文化や環境に適応し、新しい社会との結びつきを築かれ、或いは、祖国とのつながりを保つために奮闘されてこられました。

様々な困難を乗り越え今日の繁栄を築き上げてこられた先人の皆様、その先人の意思を継いだ2世、3世、そして新世代の日系人の皆様に対し、改めて敬意と深甚なる感謝の意を表します。

そのような先人の御苦勞によって、今や日比関係は、人的交流、経済、文化、安全保障はじめ幅広い分野において協力関係を深め、かつてなかったほどに強い信頼関係で結ばれています。近年、首脳間・閣僚間をはじめ政府ハイレベルの往来が活発に行われていることは、両国の紐帯が一層強固なものとなっている証左です。先月の石破総理大臣のフィリピン訪問では、首脳会談においてマルコス大統領が石破総理大臣のフィリピン訪問を歓迎した上で、協力がますます進展する両国関係は黄金時代を迎えつつある旨述べ、これに対して石破

総理からは、法の支配といった根幹となる価値観を共有し、自由で開かれたインド太平洋の実現に向け、引き続き連携していきたい旨を述べました。また、日比両首脳は、二国間関係において安全保障や経済といった幅広い分野での協力を一層深めること、また、国際情勢についても世界経済、東シナ海情勢、日米比協力をはじめ、引き続き両国で緊密に意思疎通していくことで一致しました。

このように良好な二国間関係が築かれる中で、決して忘れてはならないのは、今なお未解決の事案が残る残留日系人の問題です。

先月、石破内閣総理大臣がマニラを訪問した際、残留日系人2世と懇談されました。その中で総理は、本年、戦後80年の節目を迎える中で、フィリピン残留日系人の方々が長い年月にわたり経験された困難と苦労、そしてフィリピンの地で絆を育まれたことに対し、深甚なる敬意を表し、国籍取得や一時帰国の実現に向けて、日本政府として取り組んでいきたい旨を直接語りかけました。

在フィリピン日本大使館としても、引き続きフィリピン日系人会をはじめとする各地の日系人会、日系人会連合会、そしてPNLSCの皆様と緊密に協力しながら、残留日系人の方々の国籍取得や一時帰国、そして日系人社会の様々な課題の解決に向けて最大限取り組んでいく考えです。

加えて、2003年の発足以降、残留日系人2世の方々の身元捜しや日本国籍の取得を支援するべく、フィリピン日系人会連合会や各地の日系人会と緊密に連携しながら、フィリピン各地のみならず日本各地の親族も訪れ、丁寧かつ粘り強く貢献いただいている猪俣代表理事はじめPNLSCの皆様に対しても、同様に深い敬意と感謝を表します。

最後に、皆様が健康で幸せな日々を送り、フィリピンにおける日系人コミュニティがさらに発展することを祈念し、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

2025年5月18日

駐フィリピン日本国特命全権大使
遠藤 和也